

目次	第8回観察会報告(続報)	363
	第8回 足尾・日光観察会に参加して / 南 常俊	363
	足尾・日光観察会紀行 / 小峰 正史	364

第8回観察会報告(続報) Reports of the 8th JSL Field Meeting (Continued)

第8回 足尾・日光観察会に参加して / 南 常俊

My experiences at the 8th JSL Field Meeting at Ashio and Nikko, Tochigi-ken, central Japan
/ by MINAMI Tsunetoshi.

一昨年の下田観察会に続いて2度目の参加となります。

初めて参加した下田では、付いていくのもままならないほどの『ド素人』でしたが、その後、青空地衣教室に参加したり、自分で見つけた観察ポイントを、定期的に回ることを繰り返し、見るたびに新たな発見をして、密かに楽しんでいます。

私が地衣類を始めたというか、知ったのは現役を退いてから4年目を過ぎた頃、たまたま神奈川県広報で、県立博物館ボランティアの募集があり、本当は中学生の頃から好きだった、古生物か岩石をやりたいかたのですが、魚類と維管束植物、菌類、展示解説しかありませんでした。

そこで、一番人が無さそうな菌類に応募したところ、キノコ類や変形菌はベテランが揃っているからとのことで、地衣類を担当するよう勧められ、そのまま学芸員にのせられて地衣類を始めてしまい、2006年4月から、ただ一人の地衣類担当として今日に至っております。

現役時代の最後の約10年間は、海外工場の建設から稼働までを担当しましたので、工場の植栽も完成検査をクリアするための重要な要素だったことから、現地で緑化に使用されている草木を調査し、少しでも特色のあるものを選び出すなども手がけていたので、植物は大好きでしたが、相変わらず変わった岩石や化石を掘り出しては持ち帰っていたので、地衣類のことは全く知りませんでした。

あわてて書店に飛び込み、『校庭のこけ』や山溪の『しだ・こけ』を買い込み、毎月行われている、入生田の月例調査に参加しながら、地衣類の勉強を始めた次第です。

早いもので丸3年を過ぎて、今まで見えなかったり、気づかなかったものが、少しずつ見えたり、気付いたりするようになり、現在では完全にハマっています。

神奈川県立生命の星・地球博物館には専門の学芸員がないものの、顕微鏡を使うテクニックや、胞子の計測方法などは教えてもらったので、工夫しながらキノコの先輩たちに混ざって活動しております。

今回の観察会では、初日の銀山平では、あいにく雨天になってしまいましたが、本降りにはならなかったため、私にとっては二度目の場所だったので、復習の意味も含めてじっくりと観察しました。

特にオートキャンプ場では、テント地に着生している地衣は採集どころか、生地ごと切り取ってもOKとのオーナー様からのご好意で、大騒ぎになりましたが、私はムカデゴケ類が、普段は採集が難しく、雨天か雨上がり時に苦勞しながら採集していたので、ヘラで一気に剥がせて本当にラッキーでした。腹面がこんなに綺麗に観察出来る標本が入手出来て、嬉しかったです。

その夜の宿では、研修室が完全に酒場になってしまい、大いに盛り上がりました。

二日目の朝は真っ青な快晴となり、7時半に宿を出て日光・戦場ヶ原に向かいました。三本松の駐車場に入って朝食を食べ、バス停に移動してバスに乗り込み、小田

代原で降り、ここで日光博物館の5名の方々と合流して、総勢24名の大集団となって、今日の観察会がスタートしました。

海拔1400mの湿原・樹林の中では、初めて見るものも多く、原田先生の解説をメモして写真を撮っている、次の解説が聞けず、結局何時ものように付いて行けなくなってしまいましたが、慣れてきたようで、少しずつではありますが、進歩しているような気がしています？

大木が揺れるくらい、強風が吹き荒れていたのですが、体感的には寒かったのですが、アツと言う間に楽しい時間が過ぎてしまいました。

最後に、丁寧に解説して下さいました原田先生や、企画・フォローをして下さった世話人の方々には、感謝をいっばいです。ご苦勞様でした

相変わらずダメな会員ですが、精一杯頑張っていますので、今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

足尾・日光観察会紀行 / 小峰 正史 (秋田県立大学)

Travel note of the 8th JSL Field Meeting at Ashio and Nikko / by KOMINE Masashi

日本地衣学会主催の第8回地衣類観察会に参加してまいりました。開催場所は栃木県日光市銀山平周辺と小田代原で、9月12日、13日の二日間にわたって開催されました。

私は学会観察会の参加は今回で4回目なのですが、学会員歴は学会発足時からですので8年目、しかも学会事務局役員を当初から努めているにも関わらず、観察会にはこの4年ほどしか参加していないという、不良会員とも言うべき存在です。観察会にはできるだけ参加しようと思っているのですが、秋田県在住という地理的な問題もあり、開催地が遠い場合には余程のモチベーションがないと参加意欲が湧かないために、第1回から4回までは参加しませんでした。ここ4回ほどの観察会は、遠距離であっても(昨年は熊本県!)参加していますが、これ

は参加を決意させるほどの魅力的な場所であったためです。すばり言えば「思い出の地」で開催されていたため、学生時代などに訪れた、思い出深い場所で偶然観察会が行われるので、喜び勇んで参加していたというのが真相です。今回の日光も例外ではなく、栃木県は私の「田舎」であって、子供のころに祖父母とともにあちこち経巡った、懐かしくも特別な思い出がある場所であったことが理由のひとつです。また、私が地衣類と関わりを持ったのはいまの職場(秋田県立大学)に赴任してからですので、当然子供時代、学生時代には地衣類を意識することは全くなく、そこにどのような地衣類が生育しているのか全く知りませんでした。日本地衣学会会員として地衣類と深く関わりようになった現在、自分にとって縁のある場所にどのような地衣類が分布している

のか、あらためて確認してみたくなったというのも理由のひとつとなっています。

さて、9月12日の朝まだ早きに、集合場所であるJR日光駅に向けて、秋田県を自家用車で出発します。秋田自動車道、東北自動車道と南下を続け、休憩をはさみつつ6時間弱で日光駅に到着しました。週末ですので、高速料金は1000円也、非常にオトクです。集合時間の11時20分にはかなり早かったので、駅周辺をひとりであらつきながら参加者が集まるのを待ち、次なる集合場所であるわたらせ渓谷鉄道原向駅に向かいます。ここで全員集合、総勢19名、車10台(!)を連ねて、本日の観察ポイントである足尾温泉近傍の庚申川に沿う渓谷に向かいました。まずは小滝園地にて観察開始、雨模様ですがそれほどひどくはなく、講師の原田浩氏(千葉県立中央博物館)のご指導をいただきつつ、園地内の地衣類を観察します。マツゲゴケ、ゲシゲシゴケなどの葉状地衣類が旺盛に繁茂しており、低木の枝を覆い尽くすように着生していたのが印象的でした。その他、痾状地衣類、ハナゴケの中間の地上生の地衣類も種類が多く、楽しい観察ポイントでした。少し意外だったのはツメゴケの仲間が見られなかったことで、だいぶ湿気の高いところのような印象だったのですが、これは当日の雨のせいで、普段はもう少し乾燥した場所だったのでしょうか。それほど広くはない園地でしたが、食事も含めて2時間ほど逍遙しつつ観察を続けます。

次に向かったのは銀山平のキャンプ場です。そこここに木が生えており、葉状、痾状の地衣類がやはり数多く着生していました。ここで面白かったのは常設テントの表面に着生したゲシゲシゴケなどの葉状地衣類で、樹皮についている場合に比べて剥がしやすければかりか、古くなって程なく廃棄するのでテントの生地ごと切り出して持って行って良いとのこと、皆さん大喜びでハッサリ切り取っていました。常々思うのですが、我々地衣学者は端から見れば相当奇天烈な存在です。まわりの風景など気にもとめず、大勢で木の幹や土手や路傍の石に群が

り、ルーベで矯めつ眇めつつつつ、ときにはノミやハンマーまで振るうのですから、いつでも一般ハイカーたちの注目の的です。こんなへんな集団が押しかけたにもかかわらず、古テントの裁断まで許して下さったキャンプ場の管理者のご理解、ご厚意には深く感謝しなければならないと思います。

第一日目は、このキャンプ場より少しのぼったところにある国民宿舎かじか荘に宿泊、夜には標本の同定会も開かれました。

第二日目の観察ポイントは小田代原です。かじか荘を出発し、いろは坂をのぼり、中禅寺湖を左手に見送って、戦場ヶ原三本松駐車場に到着、朝食となります。前日と違って天気は快晴、9月とはいえ高地なので、涼しいくらいで、強い風が吹いているせいでむしろ寒く感じます。出発地点である赤沼バス停に移動しますが、朝9時にすでに駐車場は満車、三本松駐車場に戻って車を止め、1キロほど歩いてバス停に戻ります。バスで小田代原入口に向かい、日光自然博物館からの参加者5名を迎えて赤沼バス停を目指しつつ観察開始です。

こちらのポイントでは、樹枝状で長く垂れ下がるキノリやサルオガセの仲間、大型の地衣体を形成するカプトゴケの仲間などが多く見られ、大きくて派手な地衣類が好きな私にとっては絶好のポイントでした。また、女性陣に大人気のコアカミゴケやピンゴケの仲間も見つかりました。講師の原田氏の説明を聞きつつ進むので、非常にゆっくりとしたペースで観察会はすすみます。この間にも強風は続き、私と同行していたH氏は折れて落ちてきた木の枝が頭を直撃するという不幸に見舞われました。幸いにして怪我はなかったものの、やはり地面や木の幹ばかり見て歩くのは危険なようで、山に入ったら足下と頭上には要注意です。9時半ごろから2時ぐらいまで、昼食を交えつつじっくりと観察会を堪能し、赤沼バス停にて解散、全員無事日程を終了しました。私は来た道の逆をたどり、渋滞する上り線を横目に見つつのドライブで、夜10時ごろに秋田に帰り着きました(当然高

速料金は1000円。今回は交通費が一番安くつきました。)

今回の銀山平付近、小田代原はともに地衣類が豊富で、非常に楽しめた観察会となりました。お世話いただきました木下靖浩氏、安斉唯夫氏、小澤武雄氏のお三方には、このような機会を与えて下さりましたことを感謝申し上げます。私も学会観察会だけでなく、あちこちの観察会に参加することで、もともと地衣類の専門家ではないものの、門前の小僧習わぬ経を読む、の例えのごとく、分かりやすい地衣類ならなんとか同定できるようになってきました。そうなる観察会に参加する楽しみもまた変わってきて、あらたなモチベーションとなってきます。これからは、「思い出の場所」でないところでももっともっと積極的に参加していきたいと思っております。今回一緒した皆様とも、いずれまた、別の観察会でお会いすることを楽しみにしています。

さて最後に、図1は銀山平で見つけた痂状地衣なのですが、子器という子器全ての真ん中に丸い穴があいていました。はたしてこれは何ものの仕業なのでしょうか？最近、大村（2009）が報告した、ササラダニ類によるものなのだろうか？

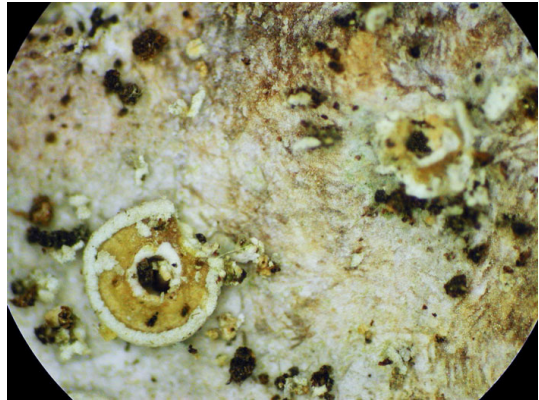


図 1. 子器盤の中央に穴の開いたチャシブゴケ属の子器。
この地衣体の子器にはことごとく穴が開いていた。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

- Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 99, pp. 363-366: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the *Japanese Society for Lichenology*, 15 Oct. 2009.

日本地衣学会ニュースレター 99号

発行日：2009年 10月 15日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2009 日本地衣学会 (© 2009 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。